**全日本高等学校書道教育研究会　学習指導案（作成方法の例）**

**「　学習指導案　」**

**はじめに**

授業者所属・職・名前　　○○立○○高等学校　教諭　○○　○○

（日　時　　令和○年○月○日（○）　○．○時限）

（対　象　　第○学年○組　書道○選択者　○○名）

（科　目　　書道Ⅰ）

単元設定の理由

○○○（今回の授業を設定した理由等を記述）○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

学習指導要領との関連

○○○（学習指導要領に基づいて記述）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

育てたい資質・能力

○○○（スクール・ポリシーを起点としたカリキュラム・マネジメントを記述）○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

※ここに示したのは一例であり，各学校で適切に作成すること。四角囲いは便宜上で付けているので，必ずしも四角囲いで示す必要はない。

**１　単元名**

**「　　　　　　　　　　　　　」**（「　　　　　」単元〇）

（例）単元名　＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑，九成宮禮泉銘）（「漢字の書」単元①）

**２**　**内容のまとまり**

（例）・「Ａ表現」（2）漢字の書　及び〔共通事項〕(1)

・「Ｂ鑑賞」（1）鑑賞　及び〔共通事項〕（1）

※ここでは「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元を例に示したが，「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみで単元を設定することも考えられる。

**３　芸術の目標と評価の観点及びその趣旨**　**【定型】このまま入れる。**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 目標 | （１） | （２） | (３) |
| 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。 | 創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 | 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。 |

　　 （高等学校学習指導要領P.141）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 趣　旨 | ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について，書の創造的活動を通して理解を深めている。  ・書の伝統に基づき，作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け，表している。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい深く捉えたりしている。 | 書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 |

　　 （改善等通知　別紙５　P.3，4）

**４　書道Ⅰの目標と評価の観点及びその趣旨**

ここでは書道Ⅰを例として高等学校学習指要領P.157及び「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.86から転記したが、科目（書道Ⅱ、書道Ⅲ）によって参考にする箇所（内容）は変化することになる。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 目　標 | 知識及び技能 | 思考力，判断力，表現力等 | 学びに向かう力，人間性等 |
| 書の表現の方法や形式，多様性などについて幅広く理解するとともに，書写能力の向上を図り，書の伝統に基づき，効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 | 主体的に書の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，書の伝統と文化に親しみ，書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 |

書道の幅広い活動を通して，書に関する見方・考え方を働かせ，生活の中の文字や書，書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のように育成することを目指す。

　　 （高等学校学習指要領P.157）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観  点 | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 趣旨 | ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。  ・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表している。 | 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。 | 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.86を参考に作成

**５****内容のまとまりにおける単元構成**

　「　　　　」(　)「　　　　」　総時間数 　　時間

　（例）「Ａ表現」(2)「漢字の書」総時間数 32　時間

単元①：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　（例）単元①：＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑，九成宮禮泉銘）全4時間【本単元】

単元②：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　　　　単元③：　　　　　　　　　　（　　　　　　　　）　全　時間

　　　　　・

　　　　　・

単元〇

※該当する内容のまとまりにおけるすべての単元について，概要がわかる程度の計画を記す。

**６　単元の目標**

1. **「知識及び技能」**

**〇知識**

・～について理解する。「Ａ表現」に関する内容

・～について理解する。「Ｂ鑑賞」に関する内容

**〇技能**

・～の技能を身に付ける。「Ａ表現」に関する内容

※一つの単元の中で二つの古典を取り上げる場合などは，それぞれの技能について目標を設定することも可能。

**（２）「思考力,判断力,表現力等」**

　　・～について構想し工夫する。「Ａ表現」に関する内容

　　・～について考え，書のよさや美しさを味わって捉える。「Ｂ鑑賞」に関する内容

**（３）「学びに向かう力，人間性等」**

・～表現の学習活動に主体的に取り組み，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

「Ａ表現」に関する内容

・～鑑賞の学習活動に主体的に取り組み，書に対する感性を豊かにし，書を愛好する心情を養う。

「Ｂ鑑賞」に関する内容

※ここでは「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元を例に示した。

※「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の場合，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」のそれぞれについて，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる目標を示す。「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」とを複合させる場合，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」のすべての資質・能力について複合させるとは限らず，また，「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のどちらか一方のみでの単元の場合は，「Ａ表現」または「Ｂ鑑賞」のいずれかで目標を設定する。

※「指導と評価の一体化の」ための学習評価に関する参考資料【高等学校　芸術（書道）】では，一つの内容のまとまりをおよそ一つの単元で構成しているため，内容のまとまりにおける指導事項のすべてを網羅して単元の目標としているが，内容のまとまりを複数の単元で構成する場合には，それらの単元を合わせた全体で内容のまとまりの指導事項を目標として網羅できればよいので，単元の学習に関わる必要な指導事項を選択して単元の目標として設定すればよい。

**７　内容のまとまりごとの評価規準**

ここでは書道Ⅰを例として「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.87、88から転記したが、科目（書道Ⅱ、書道Ⅲ）によって参考にする箇所（内容）は変化することになる。

（例）書道Ⅰ「Ａ表現」(2)漢字の書 及び〔共通事項〕(1)と，「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

との複合的な単元の場合

「Ａ表現」(2)漢字の書　及び〔共通事項〕(1)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 〔共通事項〕  ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。  ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。  ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。  ・書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。  ・古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。  ・古典の線質，字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。 | ・古典の書体や書風に即した用筆・運筆，字形，全体の構成について構想し工夫している。  ・意図に基づいた表現について構想し工夫している。 | 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.87を参考に作成

「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 〔共通事項〕  ・用筆・運筆から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解している。  ・書を構成する要素について，それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。  ・線質，字形，構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。  ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。  ・漢字の書体の変遷，仮名の成立等について理解している。  ・書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 | ・作品の価値とその根拠について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。  ・生活や社会における書の効用について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。 | 主体的に幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.88を参考に作成

※ここでは「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元を例にしているため，「Ａ表現」(2)漢字の書 及び〔共通事項〕(1)と，「Ｂ鑑賞」(1)鑑賞 及び〔共通事項〕(1)の両方を示している。

**８　単元の評価規準**

**（１）「知識・技能」**

**〇知識**

・～について理解している。（知表）

・～について理解している。（知鑑）

**〇技能**

・～の技能を身に付けている。（技）

**（２）「思考・判断・表現」**

　　・～について構想し工夫している。（思表）

　　・～について考え，書のよさや美しさを味わって捉えている。（思鑑）

**（３）「主体的に学習に取り組む態度」**

・～表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態表）

・～鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（態鑑）

※ここでは「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元を例に示した。

※目標の文末を評価規準の形にする。ただし，「学びに向かう力，人間性等」の目標から「主体的に学習に取り組む態度」の観点での評価規準を作成する場合には注意が必要。（事例参照）

※「主体的に学習に取り組む態度」の観点での評価規準は，内容のまとまりごとの評価規準は，内容のまとまり全体を広く捉えられるよう，やや漠然としたものでよいが，単元の評価規準は，単元での学習活動及び単元で育成を目指す資質・能力に適する形でより具体的に示すのが望ましい。

**９　指導と評価の計画**

・年間授業時数･･･　□時間　・「漢字の書」･･･　□時間　・本単元の配当時数･･･□時間

**（１）―　①　指導と評価の計画（概要）**

**（「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元 | 時間 | 学習活動 | 知識・技能 | | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 知表 | 知鑑 | 技 | 思表 | 思鑑 | 態表 | 態鑑 |
| 単  元 | 第　１　次（□時間）（本時） | 鑑賞 |  |  |  |  |  |  |  |
| 観点の確認 |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫 |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作① |  |  |  |  |  |  |  |
| 相互鑑賞・意見交換 |  |  |  |  |  |  |  |
| 構想・工夫の見直し |  |  |  |  |  |  |  |
| 作品制作② |  |  |  |  |  |  |  |
| 最終自己評価 |  |  |  |  |  |  |  |
| 学習のまとめ |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |  |  |  |  |
| 第　２　次（□時間） |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 矢印で評価の継続性を示す。  ◎ 指導に生かす評価  ● 記録に残す評価  を配置する。（事例参照） |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| 単元の学習のまとめ |  |  |  |  |  |  |  |
|  | ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |  |  |  |  |

※授業研究等で「本時」を示す必要がある場合は、時間の行に（本時）として記入し、セルを網掛にする等するとわかりやすくなる。また、第１次を複数時間で構成する場合、１時間ごとに学習活動の横線を太くする等工夫をするとより明確になる。

**（１）―　②　指導と評価の計画（概要）**

**（「Ａ表現」のみでの単元例）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元 | 時間 | 学習活動 | 知識・技能 | | 思考・判断  ・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知 | 技 | 思 | 態 |
| 単  元  □ | 第　１　次（□時間） |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |  |
| 第　２　次（□時間） |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |  |

**（１）―　③　指導と評価の計画（概要）**

**（「Ｂ鑑賞」のみでの単元例）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 単元 | 時間 | 学習活動 | 知識・技能 | 思考・判断  ・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知 | 思 | 態 |
| 単  元  □ | 第　１　次（□時間） |  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |
| 第　２　次（□時間） |  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価 |  |  |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.58を参考に作成

※「９　本単元における指導と評価の計画」は「（１）指導と評価の計画（概要）」「（２）単元における観点別学習状況の評価方法」「（３）観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）」「（４）本時における学習過程と評価の方法の具体」からなるが，（１），（２），（３）は，（４）の内容と呼応しており，評価方法や支援の内容，評価対象，学習活動，評価規準の記号（◎●）の場所を一致させる等の確認が必要である。

※①は「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元を例に示したため，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる評価規準を示している。②に「Ａ表現」のみ，③に「Ｂ鑑賞」のみでの単元例を示した。「参考資料」の例を誤解しないように，注意が必要。

※ここでは，単元を第２次で構成する場合の例を示したが，何次で構成していても，一つの単元において記録に残す評価を行う場面の数は，単元の評価規準１つにつき１回，つまり単元の評価規準の数と記録に残す評価の場面の数は一致することになる。

各都道府県等の様式に従って作成

**（２）****―①本単元における観点別学習状況の評価方法**

**（「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | | | ○「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の例  ◎「十分満足できる」状況（Ａ）の例  ◆「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て |
| 知識・  技能 | 知表 | 単元の評価規準を記入 | ○（知表の評価規準）について，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）理解している。  ◎（知表の評価規準）について，（●●する活動を通して　例：構想・工夫したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）に理解している。  ◆（知表の評価規準）について，（●●を活用して　例：ＩＣＴ），（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に理解できるよう支援する。 |
| 知鑑 | 単元の評価規準を記入 | ○（知鑑の評価規準）ついて，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）理解している。  ◎（知鑑の評価規準）について，（●●する活動を通して　例：相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）に感受し，理解している。  ◆（知鑑の評価規準）について，（●●を活用して　例：ＩＣＴ），（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に感受し，理解できるよう支援する。 |
| 技能 | 単元の評価規準を記入 | ○（技能の評価規準）の表現の技能をおおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）身に付け表している。  ◎（技能の評価規準）の表現の技能を身に付け表し，（●●する活動を通して　例：表現性と表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で），技能を更に（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）高め，表している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習活動を振り返らせたり，ＩＣＴを活用して動画や画像を再度確認させたりして，）表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。 |
| 思考・  判断・  表現 | 思表 | 単元の評価規準を記入 | ○（思表の評価規準）について構想・工夫するとともに，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。  ◎（思表の評価規準）について深く考えて構想・工夫するとともに，知識を活用して自身の考えを適切な用語を用いて（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）言語化している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり，これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し，）構想・工夫とその見直し，再構築に取り組めるよう支援する。 |
| 思鑑 | 単元の評価規準を記入 | ○（思鑑の評価規準）をおおむね味わって捉えるとともに，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。  ◎（思鑑の評価規準）について自らの生活と関わらせて考え，（思鑑の評価規準）を深く味わって捉えるとともに，自らの考えを適切な用語を用いて（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）言語化している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり，これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し，）書のよさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態表 | 単元の評価規準を記入 | 〇（態表の評価規準）に自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている。  ◎（態表の評価規準）に，計画的に自らの学習を振り返り，適切に調整を重ねながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果，自身の取組の経緯を振り返らせ，既得の知識と技能を生かして，●●の書風に即して表現を工夫して）主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。 |
| 態鑑 | 単元の評価規準を記入 | ○（態鑑の評価規準）に自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている。  ◎（態鑑の評価規準）に，計画的に自らの学習を振り返り，適切に調整を重ねながら主体的に粘り強く取り組むとともに，（生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く）考えようとしている。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果，自身の取組の経緯，相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方や考え方を振り返らせ，●●の書風及び自他の作品のよさや美しさを感受し，）主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。 |

**（２）―②本単元における観点別学習状況の評価方法**

**（「Ａ表現」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | | | ○「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の例  ◎「十分満足できる」状況（Ａ）の例  ◆「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て |
| 知識・  技能 | 知 | 単元の評価規準を記入 | ○（知表の評価規準）について，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）理解している。  ◎（知表の評価規準）について，（●●する活動を通して　例：構想・工夫したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）に理解している。  ◆（知表の評価規準）について，（●●を活用して　例：ＩＣＴ），（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に理解できるよう支援する。 |
| 技 | 単元の評価規準を記入 | ○（技能の評価規準）の表現の技能をおおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）身に付け表している。  ◎（技能の評価規準）の表現の技能を身に付け表し，（●●する活動を通して　例：表現性と表現効果等を生かして効果的に表現を工夫する中で），技能を更に（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）高め，表している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習活動を振り返らせたり，ＩＣＴを活用して動画や画像を再度確認させたりして，）表現の技能を実感的に捉え表すことができるよう支援する。 |
| 思考・  判断・  表現 | 思 | 単元の評価規準を記入 | ○（思表の評価規準）について構想・工夫するとともに，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。  ◎（思表の評価規準）について深く考えて構想・工夫するとともに，知識を活用して自身の考えを適切な用語を用いて（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）言語化している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり，これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し，）構想・工夫とその見直し，再構築に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態 | 単元の評価規準を記入 | 〇（態表の評価規準）に自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている。  ◎（態表の評価規準）に，計画的に自らの学習を振り返り，適切に調整を重ねながら主体的に粘り強く取り組もうとしている。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果，自身の取組の経緯を振り返らせ，既得の知識と技能を生かして，●●の書風に即して表現を工夫して）主体的に表現の学習活動に臨めるよう支援する。 |

**（２）―　③本単元における観点別学習状況の評価方法**

**（「Ｂ鑑賞」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 評価の観点と単元の評価規準 | | | ○「おおむね満足できる」状況（Ｂ）の例  ◎「十分満足できる」状況（Ａ）の例  ◆「努力を要する」状況（Ｃ）と判断される生徒への手立て |
| 知識 | 知 | 単元の評価規準を記入 | ○（知鑑の評価規準）ついて，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）理解している。  ◎（知鑑の評価規準）について，（●●する活動を通して　例：相互鑑賞・意見交換したり言語化したりする活動を通して）実感的（または十分）（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）に感受し，理解している。  ◆（知鑑の評価規準）について，（●●を活用して　例：ＩＣＴ），（●●する。例：具体例を示す　振り返らせる）などして実感的に感受し，理解できるよう支援する。 |
| 思考・  判断・  表現 | 思 | 単元の評価規準を記入 | ○（思鑑の評価規準）をおおむね味わって捉えるとともに，おおむね（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）自身の考えを適切な用語を用いて言語化している。  ◎（思鑑の評価規準）について自らの生活と関わらせて考え，（思鑑の評価規準）を深く味わって捉えるとともに，自らの考えを適切な用語を用いて（※具体的な実現状況を明記すればなおよい）言語化している。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：意見交換で他者の捉え方や考え方を参考にしたり，これまでの知識や技能と関連させたりするよう促し，）書のよさや美しさを捉える活動に取り組めるよう支援する。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 態 | 単元の評価規準を記入 | ○（態鑑の評価規準）に自らの学習を調整しながら粘り強く取り組もうとしている。  ◎（態鑑の評価規準）に，計画的に自らの学習を振り返り，適切に調整を重ねながら主体的に粘り強く取り組むとともに，（生活や社会との関わりや自身の人生とも関わらせて幅広い視野から書を捉えて深く）考えようとしている。  ◆（支援の方法を具体的に記入。例：学習した●●の書風や表現効果，自身の取組の経緯，相互鑑賞・意見交換での他者との感じ方や捉え方や考え方を振り返らせ，●●の書風及び自他の作品のよさや美しさを感受し，）主体的に鑑賞の学習活動に臨めるよう支援する。 |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.61～63を参考に作成

※①は「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の例を示したため，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる観点別学習状況の評価方法を示している。②に「Ａ表現」のみでの単元の例，③に「Ｂ鑑賞」のみでの単元の例を示した。「参考資料」の例を誤解しないように，注意が必要。

※例として示した語句等は，あくまでもサンプルとして示しているので，こうでなければいけない，こうすることを推奨するといった意図によるものではない。

**（３）観点ごとの実現状況等を見取る（見取ることができる）方法（評価対象と学習活動）例**

（評価対象及び学習活動は，必要なものを記載）

**ア「知識・技能」**

**（ア）「知識」**

　　　 【知表】・・・（評価対象）ワークシート，活動の様子（意見交換における発言） 等

（学習活動）「観点の確認」「相互鑑賞・意見交換」「構想・工夫の見直し」等

　　　 【知鑑】・・・（評価対象）ワークシート　活動の様子（意見交換における発言）等

　　　　　　　　　 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「観点の確認」等

**（イ）「技能」**

　　　 【技】・・・・（評価対象）作品 等

　　　　　　　　　 （学習活動）「作品制作」等

**イ「思考・判断・表現」**

　　　 【思表】・・・（評価対象）ワークシート，作品 ，活動の様子（意見交換における発言，作品制作における取組状況）等

　　　　　　　　　 （学習活動）「構想・工夫」「構想・工夫の見直し」等

　　　 【思鑑】・・・（評価対象）ワークシート，活動の様子（意見交換における発言　等） 等

　　　　　　　　　 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」「単元の学習のまとめ」等

**ウ「主体的に学習に取り組む態度」**

　　　 【態表】・・・（評価対象）ワークシート，活動の様子（作品制作における取組状況）等

　　　　 　　　　　（学習活動）「構想・工夫」「作品制作」「構想・工夫の見直し」等

　　　 【態鑑】・・・（評価対象）活動の様子（意見交換における発言，鑑賞活動における取組状況），

ワークシート 等

　　　　　　　　　 （学習活動）「鑑賞」「相互鑑賞・意見交換」「自己評価」

「単元の学習のまとめ」等

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.56，57およびP.59，60を参考に作成

※ここでは「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元にも対応できるよう，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）をおおよそ示した。指導する単元の内容に応じて，適宜，評価対象，学習活動を加減する必要がある。

※ここに示した観点ごとの実現状況等を見取る方法（評価対象と学習活動）は，すべての単元に共通するわけではない。

**（４）―　①****ａ本時（本単元）における学習過程と評価の方法の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（例）単元①****＜楷書＞書風と結構法（孔子廟堂碑，九成宮禮泉銘）第１次（２時間）の学習計画**

**【本時はその１時間目】**

**（「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動  両項目とも，学習活動を通して育成する資質・能力を学習者・指導者の双方が意識しながら取り組めるよう，工夫して記述するよう努める。 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ⅰ」ＩＣＴ成果物 | | | | | | |
| 知識・技能 | | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 知  表 | 知  鑑 | 技 | 思  表 | 思  鑑 | 態  表 | 態  鑑 |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 | （3）の学習活動名と具体的な内容を記入。 | 指導上の留意点と支援の具体的な内容を記入。  ※ねらい・学習活動と行を揃え呼応させるとわかりやすい。 | 評価の方法は，(3)の学習活動と対応させ，見取ることのできる評価の観点ごとに評価対象を記入する。その際，指導に生かす評価には「◎」を，記録に残す評価には「●」を付ける。  ※ねらい・学習活動と行を揃え呼応させるとわかりやすい。 |  |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |  |  |
| **【評価の方法の具体】（例）**  **評価の方法の具体は，各学習活動の場面の評価として（評価の方法を具体化・明確化するものとして），それぞれの場面に応じた「ねらい・学習活動」や「指導の留意点」をもとに設定する。その際には「（単元の）評価規準」を念頭に置くこと。**  **知表◎：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），〔既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点，併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（該当する単元の目標に即した学習内容を記入〕について理解し，活用して，適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を〔観察・ワークシート等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，指導に生かす。**  **知表●：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），〔既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点，併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（該当する単元の目標に即した学習内容を記入〕について理解し，活用して，適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を〔観察・ワークシート等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，記録に残す。**  **知鑑◎：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），〔既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点，併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（該当する単元の目標に即した学習内容を記入〕について理解し，活用して，適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，指導に生かす。**  **知鑑●：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），〔既得の知識・観点と本時の学習の中で習得した知識・観点，併せて学習してきた〔共通事項〕の内容（該当する単元の目標に即した学習内容を記入〕について理解し，活用して，適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，記録に残す。**  **技　◎：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫する中で（表現の意図及びそれに基づく構想の実現のための表現の工夫を通して），〔基本的な用筆・運筆等〔学習内容に応じて〕記入〕の表現の技能を身に付けて表しているか（目標の実現状況）を，〔活動の様子の観察や作品等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，指導に生かす。**  **技　●：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），表現の意図及びそれに基づく構想の実現のために表現を工夫する中で（表現の意図及びそれに基づく構想の実現のための表現の工夫を通して），〔基本的な用筆・運筆等〔学習内容に応じて〕記入〕の表現の技能を身に付けて表しているか（目標の実現状況）を，〔活動の様子の観察や作品等（具体的な評価方法や評価対象）を記入〕から（により）見取り，記録に残す。**  **思表◎：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），見方・考え方を働かせ，既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の見方・考え方に触れたり〔学習内容に応じて記入〕しながら構想・工夫し，広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，指導に生かす。**  **思表●：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），見方・考え方を働かせ，既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の見方・考え方に触れたり〔学習内容に応じて記入〕しながら構想・工夫し，広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，記録に残す。**  **思鑑◎：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），見方・考え方を働かせ，既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の見方・考え方に触れたり〔学習内容に応じて記入〕しながら書のよさや美しさを味わって捉え，広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，指導に生かす。**  **思鑑●：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），見方・考え方を働かせ，既得の知識・観点や〔共通事項〕を活用したり他者の見方・考え方に触れたり〔学習内容に応じて記入〕しながら書のよさや美しさを味わって捉え，広げた自身の考えを適切な用語を用いて言語化しているか（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，記録に残す。**  **態表◎：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすること〔具体的な「表現」の活動を記入することも可〕に向けて粘り強く取り組もうとしているか，その中で自らの学習を調整〔具体的な「表現」の活動を記入することも可〕しようとしているかの両側面から，主体的に学習に取り組もうとしている様子（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，指導に生かす。**  **態表●：〔「表現」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすること〔具体的な「表現」の活動を記入することも可〕に向けて粘り強く取り組もうとしているか，その中で自らの学習を調整〔具体的な「表現」の活動を記入することも可〕しようとしているかの両側面から，主体的に学習に取り組もうとしている様子（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，記録に残す。**  **態鑑◎：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすること〔具体的な「鑑賞」の活動を記入することも可〕に向けて粘り強く取り組もうとしているか，その中で自らの学習を調整〔具体的な「鑑賞」の活動を記入することも可〕しようとしているかの両側面から，主体的に学習に取り組もうとしている様子（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，指導に生かす。**  **態鑑●：〔「鑑賞」の評価対象となる具体的な学習活動を記入〕を通して（する中で），知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすること〔具体的な「鑑賞」の活動を記入することも可〕に向けて粘り強く取り組もうとしているか，その中で自らの学習を調整〔具体的な「鑑賞」の活動を記入することも可〕しようとしているかの両側面から，主体的に学習に取り組もうとしている様子（目標の実現状況）を，〔観察・ワークシート等を記入〕（具体的な評価方法や評価対象）から（により）見取り，記録に残す。** | | | | | | | | | | | |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |  |  |
| **【評価の方法の具体】** | | | | | | | | | | | |

**（４）―　②ａ本時における学習過程と評価の方法の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（「Ａ表現」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ⅰ」ＩＣＴ成果物 | | | | |
| 知識・技能 | | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知 | | 技 | 思 | 態 |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  | |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  | |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  | |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  | |  |  |  |
| **【評価の方法の具体】** | | | | | | | | | |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  | |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  | |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  | |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  | |  |  |
| **【評価の方法の具体】** | | | | | | | | | |

**（４）―　③ａ本時における学習過程と評価の方法の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（「Ｂ鑑賞」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ⅰ」ＩＣＴ成果物 | | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知 | 思 | 態 |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |
| **【評価の方法の具体】** | | | | | | | |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |
| **【評価の方法の具体】** | | | | | | | |

**（４）―　①ｂ本時における学習過程と評価の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（例）単元①「楷書の書風と結構法」第１次（２時間）の学習計画【本時はその１時間目】**

**（複合的な単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時  間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ｉ」ＩＣＴ成果物 | | | | | | | 評価の方法の具体 |
| 知識・  技能 | | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 知  表 | 知  鑑 | 技 | 思  表 | 思  鑑 | 態  表 | 態  鑑 |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 | （3）の学習活動名と具体的な内容を記入。 | 指導上の留意点と支援の具体的な内容を記入。  ※ねらい・学習活動と行を揃え呼応させるとわかりやすい。 |  |  |  |  |  |  |  | **【評価の方法の具体】**  **評価の方法の具体は，各学習活動の場面の評価として（評価の方法を具体化・明確化するものとして），それぞれの場面に応じた「ねらい・学習活動」や「指導の留意点」をもとに設定する。その際には「（単元の）評価規準」を念頭に置くこと。**  **（①ａ参照）** |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |  |  |  |

**（４）―　②ｂ本時における学習過程と評価の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（「Ａ表現」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ⅰ」ＩＣＴ成果物 | | | | 評価の方法の具体 |
| 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 知 | 技 | 思 | 態 |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  |  |  |  |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  |  |  |  |  |

**（４）―　③ｂ本時における学習過程と評価の具体**

**単元〇「　　　　　　　　　」第　　次（　　時間）の学習計画【本時はその　　時間目】**

**（「Ｂ鑑賞」のみでの単元の例）**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 活動の流れ | 時  間 | ねらい・学習活動 | 指導上の留意点  「・」指導上の留意点  「◆」支援内容 | 評価の方法  ◎指導に生かす評価  ●記録に残す評価  「観」活動の様子  「ワ」ワークシート  「作」作品  「Ｉ」ＩＣＴ成果物 | | | | | 評価の方法の具体 | |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| 知 | 思 | | 態 | |
| 第１次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
|  |  |  | |  | |  | |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  | |  | |  | |  |
| 第２次 | 導  入 | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
| 展  開 | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
|  |  |  | |  | |  | |  |
| ま  と  め | 〇  分 |  |  |  | |  | |  | |  |
| ◎指導に生かす評価  　　　●記録に残す評価 | | | |  | |  | |  | |  |

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校芸術（書道）P.47～48,P.59～61,P.64～76を参考に作成

※①は「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」との複合的な単元の例を示したため，「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれについて，「Ａ表現」と「Ｂ鑑賞」に関わる評価の観点を示している。②に「Ａ表現」のみでの単元の例，③に「Ｂ鑑賞」のみでの単元の例を示した。「参考資料」の例を誤解しないように，注意が必要。

※ここでは，あくまでも例として示したもので，必ずしもこの通り記述しなければならないわけではなく，各都道府県等で示された様式に基づいて記述することになる。

**10　年間指導計画**

　各都道府県等の様式に基づいて作成する。

**11****参考資料・参考文献等**

　・授業で使用する資料，関連データ等

（ワークシート，ルーブリック，評価セッション・パフォーマンスシート，

　　アンケート等の数的資料や分析データ　等）

　・学習指導案を作成するに当たり，引用したり参考にしたりした資料等